

記入日 2021年9月27日  
 助成団体名 一般財団法人 水俣病センター相思社

## 2020年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	水俣病関連資料保存のための環境整備
取り組み実施期間または日時	2020年11月～2021年9月

### 【取り組み目的】

1. 相思社資料室収蔵中の資料の劣化防止対策— 第2資料室の除湿器設置
2. 丸木位里・俊夫妻の布製絵画の展示環境整備
3. 資料活用環境の整備

### 【取り組み内容と成果】

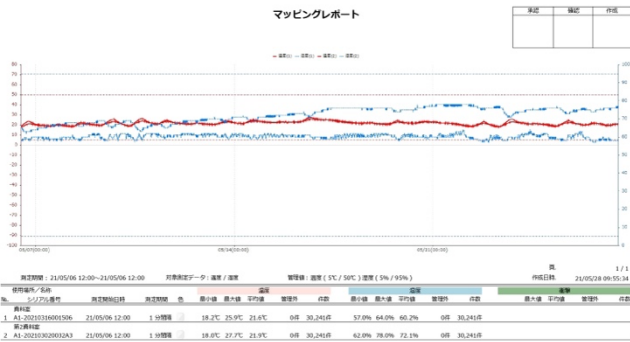
#### ・第2資料室の除湿器設置

2019年度には第1資料室に除湿機を設置したが、第2資料室には未設置だったため除湿機1台を設置した。設置に伴い排水ホースの配管工事を行った。除湿器設置後は第2資料室内50%に湿度設定を行い湿度が保たれるようになった。

#### ・温湿度データロガーを購入

資料収蔵場所の温度、湿度の変化を測定するためのデータロガーを購入した。温度、湿度の変化を一定期間測定することにより、単体の湿度計、温度計では計測が難しい昼夜の温湿度の差や季節毎の状況を把握できるようになった。

下記の画像はデータロガーの測定数値のグラフである。第1資料室(昨年除湿器を設置)、と除湿器設置前の第2資料室の温湿度を比較したところ赤線の温度はどちらも同じであるものの湿度(青線)は第1資料室は60%前後に抑えられているのに対して、第2資料室は80%近くまで上がっている日があることが分かった。



・丸木位里・俊夫妻の布製絵画の裏打ち処理

乙女塚「みんなの家」の取り壊しに伴い相思社で保管中の丸木位里・俊夫妻による布製絵画(4m)の展示・公開を可能にするため、東京の丸木美術館に相談し裏打ちを施した。裏打ち後は、展示用に木枠に張り付けるため地元建具店(緒方建具)にお願いし試作と検討を重ねたが、4mの大型作品であり管理や展示スペースを考慮すると木枠の取り付けは行わず、裏打ちの状態でもクリップ等で吊り下げる展示方法を採用することとした。



↑裏打ち処理を確認する緒方建具の緒方正実さん



↑裏打ちを施した丸木位里・俊による布製絵画

・丸木位里・俊夫妻の布製絵画の展示環境整備

水俣病歴史考証館の小展示室に展示するための環境整備を行った。まず、10年以上前に設置して故障した除湿器がそのまま放置されていたため取り外し工事を行う撤去した。また、照明器具は資料を劣化させてしまう蛍光灯からLEDのスポットライトに取り換えた。また、展示を吊り下げるためのワイヤーを購入した。

・資料活用環境の整備

インターネットの専門知識を有さない職員でも継続的に管理できるよう、昨年度外注したデータベース構築システムを今年度も引き続き使用した。わかりやすい検索サービスには定評があり、研究者による資料の利用につながったと考える。コロナ禍でフィールドワークのガイド等の仕事が減った今年度は、職員総出で資料整理を進め新規登録資料も増やすことができた。

【備考欄】